

## 成人注意欠如多動性障害におけるfMRIを用いた報酬待機時間および報酬量に関連する脳神経基盤の検討

著者	戸所 綾子
学位授与年月日	2014-03-24
URL	<a href="http://doi.org/10.15083/00009142">http://doi.org/10.15083/00009142</a>

## 【課程一2】

### 審査の結果の要旨

氏名 戸所 綾子

本研究は、注意欠如多動性障害（ADHD:Attention Deficit Hyperactivity Disorder）の病態の1つである衝動性における時間処理障害や報酬系回路異常の関与を検討するため、課題中に実際に報酬待機時間が生じる異時点間選択課題を用い、報酬待機時間に関連する脳活動を検証し（実験1）、また、別の衝動性の病態モデルである報酬や損失の量に関する感度（size sensitivity）の異常説について検討するため、実験1の課題に損失すなわち負の報酬条件を設定し、報酬および損失に関連する行動及び脳活動の異同について検証した（実験2）ものであり、下記の結果を得ている。

（詳細な結果については未投稿論文の結果を含むため、不掲載）

本論文では、未服薬の成人ADHDを対象に新たな課題を用いたfMRI画像研究から、成人ADHDの衝動性において視覚的時間知覚の関与と損失への感度異常が存在することを行動および神経基盤レベルで示唆された。

これらの結果は、ADHDにおける衝動性について、生物学的な知見をもとにその症候を捉え、各人への最適な治療法の確立に寄与するという点において、重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。